

# 今年に入っても毎日のように続く危険極まりない合同軍事演習

期間	軍事演習	内容
1月2日～15日	米ストライカー師団と南のアーミータイガー部隊による合同訓練	米韓将兵約800人が参加し、K808車輪型装甲車・米ストライカー装甲車・偵察ドローン・無人航空機・対戦車ミサイル「玄宮」など様々な兵器を使用。
1月中旬（約1週間）	米英韓海兵特殊部隊訓練	米国とイギリス、南朝鮮の特殊部隊が哨戒艦とステルスボートで北の海岸に上陸、山岳地帯に侵入し精密打撃する訓練や暗視スコープを装着し日没後に海岸に浸透する訓練などを昼夜を問わず実施。
1月27日	米韓合同砲兵演習	監視・探知資産が標的位置を共有し同時に砲撃で標的を焦土化する実践的方式で実施。
2月1日	朝鮮西海上空での米韓空軍の合同軍事演習	B-1B戦略爆撃機と、F-22「ラプター」、F-35「ライトニングII」などが参加。
2月3日	朝鮮西海上空での米韓空軍の合同軍事演習	F35A、F-22、F-35Bなど第5世代ステルス戦闘機とF-16CMなど多数の戦力が参加。
2月5日～9日	「ビバリーパック訓練」	ドローンバスターを動員した小型無人機対応訓練。F-16とKF-16の並隊飛行、大量死傷者発生対応、生物学的危害対応等、様々な状況を想定した訓練。
2月19日	米B-1B戦略爆撃機等を動員した米韓連合訓練	F-35AおよびF-15K、F-16が南朝鮮防空識別圏に進入する米B-1B戦略爆撃機を護衛しながら連合編隊飛行を実施する方式で実施。
2月22日	米・韓・日海軍合同ミサイル防衛訓練	米海軍第7艦隊のイージス・ミサイル駆逐艦「バリー」、日本海上自衛隊のイージス護衛艦「あたご」、南朝鮮海軍のイージス駆逐艦「世宗大王」と共に弾道ミサイル防衛訓練を実施。
2月22日	第8次拡張抑制手段運用演習（DSC TTX）	米韓両国が「北の核脅威」に対応する概念と手続きを発展させるため両国国防部が共同主管する演習。
2月初旬～3月初旬	「チークナイフ」訓練	特殊部隊が航空機を利用して北の敵陣に侵入する一連の過程を習熟するためのもの。米空軍のAC-130J「ゴーストライダー」が初めて動員。
3月3日	米韓空軍による合同軍事演習	米戦略爆撃機B-1Bと南朝鮮側のF-15K、KF-16戦闘機が朝鮮西海及び中部内陸で行った訓練。米国の核兵器と通常戦力で南朝鮮を防衛する「拡大抑止」の信頼性を高めるのが狙い。
3月13日～23日	「フリーダムシールド」米韓合同軍事演習	11日間連続実施。上陸訓練、「北朝鮮指導部を標的にした特殊作戦」の訓練を含む約20種の野外機動訓練を過去の「フォールイーグル」以上、史上最大規模で実施。戦略爆撃機、戦闘機、原子力空母、核潜水艦等の戦略資産を動員した核先制攻撃訓練。
3月19日	米韓空軍による合同空中訓練	F35A、B1B戦略爆撃機、F16戦闘機が参加。「迅速対応戦力の展開能力」、「戦時の強力な戦略的打撃能力」などを強化する目的で実施。
3月20日～4月3日	米韓合同上陸訓練「双竜」	元山上陸と平壤の占領、最高指導部を暗殺する「斬首作戦」のための訓練。1万3000人余りが参加し、ステルス垂直離着陸機F35-Bを搭載した米海軍強襲揚陸艦「マキン・アイランド」も初めて投入。過去最大規模で実施。
4月3日～4日	米韓日共同訓練	米海軍原子力空母「ニミッツ」、海上自衛隊、南朝鮮海軍の艦艇が参加。
4月～10月	2023花郎訓練	「北の安保脅威から国民の生命と安全を守る」との名分で、民間、公務員、軍、警察、消防などすべての国防要素が動員され、大邱、大田、忠南、世宗、仁川、ソウル、光州で行われる大規模な訓練。
4月17日	米韓日共同ミサイル防衛訓練	朝鮮東海の公海上で行われた「北朝鮮の弾道ミサイルの迎撃」を想定し、探知、追跡、情報共有などの手順を熟達する訓練。
4月17日～4月29日	「コリア・フライング・トレーニング（KFT）」	歴代最大の空軍による連合編隊軍総合訓練。南朝鮮軍からはF35AやF16など60機余り、米軍からはF16やF35B、FA18など40機余り、兵員約1400人が参加。
5月25日～6月15日	米韓「連合・合同火力撃滅訓練」	軍事境界線からわずか数キロ離れた京畿道抱川で、5回にわたって先端戦力が大挙参加する歴代最大級規模の火力訓練。「米・韓連合戦力と陸・海・共合同戦力が最新の武器を動員して撃滅能力を誇示する」ことが目的。
5月31日	「大量破壊兵器拡散防止構想（PSI）」に基づく多国間海上阻止訓練	米国、南朝鮮、日本、オーストラリア、カナダなどが、朝鮮などの特定の国の「大量破壊兵器の輸送を遮断する」との目的で実施する多国間軍事訓練。

## 朝鮮侵攻の実戦演習、米韓日三角軍事同盟の本格化



空軍による歴代最大規模の連合編隊軍総合訓練「コリア・フライング・トレーニング」

そして、5月25日から6月15日まで、軍事境界線に隣接する京畿道の抱川一帯で6年ぶりに「合同火力撃滅訓練」を歴代最大規模で5回にわたり実施しています。この訓練には、最先端戦力71個部隊と将兵2500人余りが参加し、地上ではK2戦車とK9自走砲、K21装甲車、K55A1,230mm級多連装ロケット、130mm多連装ロケット、多連装ロケットMLRS、化学生物防護偵察装甲車など500台余り、空中ではF35Aステルス戦闘機とF15K戦闘機、F16戦闘機など40機余りと陸軍のアパッチ、コブラ、スリオンなどの戦闘ヘリなどの装備610台余りが動員されています。



歴代最大規模「合同火力撃滅訓練」

その最中の5月30日から6月2日までは、済州島周辺海域で米国と南朝鮮、日本、オーストラリアなどが共に「拡散防止構想(P S I)」による海上阻止実動訓練を行っています。

また、4月26日の米韓首脳会談で発表された「ワシントン宣言」に基づき、40数年ぶりに米海軍の戦略ミサイル原子力潜水艦が南朝鮮地域に随時展開されようとしています。

朝鮮戦争以来、史上最大規模を含む様々な米韓合同軍事演習がこれほど多く毎日のように行われたのは、過去になかったことです。

また、これらすべての合同軍事演習は、朝鮮に対する核先制攻撃と「元山(朝鮮東海岸都市)上陸」、「平壤占領」、最高指導部を狙った「斬首作戦」など、全面核戦争を想定した極めて侵略的で無謀な軍事挑発です。

まして、朝鮮戦争が70年たった今も終結せず、法的には交戦状態にある朝鮮半島で核保有国をターゲットに、このような大規模で攻撃的な軍事演習を強行することは、狂気の沙汰としか言いようがありません。

にもかかわらず、日本はその片棒を担いでいます。



米韓日による大規模な海上訓練

昨年秋に続き、朝鮮東海の独島付近では、日本の海上自衛隊のイージス護衛艦「あたご」が、米国イージス駆逐艦「バリー」と南のイージス駆逐艦「世宗大王」と共に2月22日に、また、米国イージス駆逐艦「ベンフォールド」と南のイージス駆逐艦「ユルゴク・イイ」と共に4月17日に、朝鮮のミサイル発射を想定した迎撃訓練を実施しました。

また、4月3日と4日には、日本の海上自衛隊の駆逐艦「うみぎり」が、米海軍の原子力空母「ニミッツ」とイージス駆逐艦「ディケイター」、「ウェイン・E・マイヤー」や南朝鮮海軍の各種艦船と共に朝鮮の潜水艦に対する攻撃を想定した大規模な海上訓練を行いました。

まさに今、米韓日の三角軍事同盟体制が本格的に築かれつつあります。